

中高の歴史教育(世界史分野)における関係構築への一試案 —高校生学力向上事業(世界史)の一助として—

濱 田 敏 功

本研究の目的は、中学校の世界史的内容と高等学校の世界史をどのように繋ぎ、中高接続を構築すべきかを考察し、連続性もしくは一貫性の試案を提示することにある。高等学校世界史Bの新学習指導要領では「中学校社会科との接続」が強く意識されている。しかし、その一方で、「中高接続」に関する研究が十分になされていないのも事実である。

本研究では、中学校の歴史教科書と大学入試センター試験の分析、および、高校生の意識調査の分析をもとに、中学校・高校の世界史学習の接続や連続性を可能とする「中学校の歴史教科書を使用した高校世界史の授業」を提案する。この提案は歴史的事象の「構造化」の有益性だけでなく、幾つかの授業改善の可能性を示唆するものである。

〈キーワード〉 **社会科、地理歴史科、歴史教育、世界史、中高接続、中高連続性**

I 主題設定の理由

第一の理由は、中学校における歴史教育があくまでも日本史中心で、世界史は日本史の背景として学習しているにすぎない一方で、高校では世界史が必修となっている点である。このため、高校の世界史学習に対して困難が付きまとい、授業や学習活動において多くの工夫が必要とされる現状がある。事実、大学入試センター試験の地理歴史科のB科目における受験者数を比較すると世界史Bが最も少ない。

第二の理由は、平成25年度より学年毎に順次実施される高校世界史の新学習指導要領において、「中学校社会科との接続」が強く意識されている点である。また中学校でも、世界史的学習内容の扱いが拡大・充実の方向になっている。その象徴的事項が、中学校社会科の新学習指導要領の内容(5)のア「欧米諸国における市民革命や産業革命、アジア諸国などの動きを通して、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアに進出したことを理解させる」の中項目で、世界史だけの独立した中項目となったことである。さらに、現行の学習指導要領に存在しているいわゆる「歯止め規定」が廃止され、ある程度の自由な裁量も可能となった点も大きい。

第三の理由は、「小学校を含め、中・高の歴史教育をどのように繋げて構成すべきか」という議論が、小・中・高全体の一貫した目標や定義で十分に深まっていない状況(山田 2007)が存在している点である。その原因の一つとして、「小学校から高校までの教育課程にある小学校社会科の歴史学習、中学校社会科における日本史中心の学習、高校においては地理歴史科の中で独立した世界史・日本史というように、総合から専門科目への分化・発展の形態をとっているため、その学校段階の教科・科目構成の枠内で歴史学習が行われ完結する仕組みになっている。従って、必然的に学校段階が上昇するごとに歴史学習の専門性が高められている傾向が強い(溝上 1990)」という現状がある。

以上のような現状から、本研究では「歴史教育の方向性」を「歴史的事象の認識内容の進展」つまり「歴史そのものの理解を濃密にさせる」とし、高校の教員の立場から「中学校の歴史教科書を使用した高校世界史の授業」を提案することで、歴史的事象の詳細な認識を深める一試案を考察する。しかも、高校の教員の立場から中学校の世界史的内容との接続を考察したものである。よって、中高の両者が同じ目的をもって連絡し合い、協力し合う「連携」とは意味が異なるため、密接な関係をもつ意味の「関係(連繫)」を用いた。また、「中高接続」を考察することは必然的に授業改善に繋がるものであるため、本研究は「福井県高校生学力向上事業」にも資すると考え、取り組む次第である。

II 研究の目標

- 1 初めて専門性の高い世界史を学習することになる高校世界史と中学校世界史的内容の繋がりや接続を考慮し、汎用性の高い無理のない授業内容構成を提案する。
- 2 高校生学力向上事業(世界史)の一助となる学習素材や授業案を提案する。

III 研究の方法

- 1 中学校の歴史教科書から世界史的内容の用語・文章などを抽出する。中学校教科書の使用は、特別な資料作成の必要性もなく、授業準備が容易であることや多くの先生方が利用できるなどの「汎用性」が高いからである。
- 2 大学入試センター試験(2001年度～2011年度)から、正誤判断をする上で必要な用語などを抽出する。高校教科書からの用語選択・抽出では、筆者が何を重要視し、何を重要視しないかという主観に大きく左右される危険性があるためである。
- 3 上記の抽出した用語・文章から繋がりや関連性を見付け、汎用性を有する中高接続を可能にする授業構築を考察する。

IV 研究の内容

1 平成24年度版 中学校歴史教科書(東京書籍)からの世界史的内容の用語・文章を抽出し分析する。

<第6章 二度の世界大戦と日本 2節 世界恐慌と日本の中国侵略 1 世界恐慌とブロック経済>

世界恐慌

アメリカは、①第一次世界大戦の被害を受けることなく繁栄が続き、②世界経済の中心となっていました。ところが、③繁栄の頂点にあっただけに見えた④1929(昭和4)年10月、⑤ニューヨークの株式取引所の株価が暴落し、取りつけさわぎが起こり、これをきっかけに銀行や工場がつぶれ、農産物の価格も急落し、失業者が町にあふれました。こうした混乱は、⑥アメリカから世界じゅうに広がったので、世界恐慌とよばれています。

⑦各国の政府は、世界恐慌と、その後10年ほど続いた不況に対して、それぞれ自国第一の対策を追求したので、国際連盟や軍縮によってできあがっていた⑧大戦後の国際協調体制は大きくゆらぎました。

- ①の「第一次世界大戦の被害を受けない」は、アメリカの「永遠の繁栄」という歴史的事象としての要因。
 ②の「世界経済の中心」は、アメリカの「永遠の繁栄」という歴史的事象の具体的例。
 ③の「繁栄の頂点」は、1920年代にアメリカが世界で最も経済大国となった「永遠の繁栄」を示している。
 ④の「1929年」は、歴史的事象の重要年代。
 ⑤の「ニューヨークの株式取引所の株価が暴落し」は、世界恐慌発生としての歴史的事象。
 ⑥の「アメリカから世界じゅうに広がったので、世界恐慌とよばれています」は、歴史的事象の状況。
 ⑦の「各国の政府は、…(中略)…、それぞれ自国第一の対策を追求した」は、歴史的事象の状況。
 ⑧の「大戦後の国際協調体制は大きくゆらぎました」は、平和な時期から再び対立へ向かう歴史的事象の状況。

以上のように、教科書本文中より世界史的内容の用語、もしくは文章を取り上げて、時代ごとの一覧表を作成したのが、次ページの表1である。抽出された語句・用語、もしくは文章の数は、現在使用の教科書では「290」であったが、平成24年度用の新教科書では「517」まで増加した。中学校新学習指導要領の改訂の特徴が、教科書からも読み取れる結果であった。因みに、歴史的事象の因果関係を説明する文章については、表1に掲載していない。

表 1 平成24年度版 中学校歴史教科書（東京書籍）からの世界史的内容の用語・文章一覧表

	アメリカ	アフリカ	ヨーロッパ	西アジア	南・東南アジア	東アジア	全体	
先史		狩人				火の使用(北京原人) 言葉の使用(北京原人)	二足歩行 旧石器時代 氷河時代 新人 土器 農具の使用 打製石器 原人 新石器時代 磨製石器	
古代		エジプト文明 ナイル川 ピラミッド バラム 象形文字(ヒエログリフ) ヘレニズム ヘレニズム文化の日本への波及	都市国家 ポリス 奴隷 市民 ユークリッド ヘルメス アレクサンドロス大王 の源 ギリシア文化(例多) 演劇 建築 彫刻 哲学 数学 医学	神農と伝説を中心とする 民衆 直接民主政 アルキメデス ローマ帝国 ローマ(都市国家) 地中海世界の統一 ローマ文化の例多 貨幣制度 交通網 季節風貿易 水道 浴場 闘技場 ローマ法 ユリウス暦 ラテン語	都市国家 メソポタミア文明 パルティア地方 後のキリスト教 楔形文字 『聖書』(新約聖書) 身分制(後のカースト) 大陰暦 60進法 パムツシ法典 オリゴト 三位一体 アルファベットの発明	インドス川 インドス文明 アーリア人 身分制(後のカースト) 釈迦(ジャナカ) 仏教	都市国家 紀元前16世紀 甲骨文字 春秋戦国 諸侯の兵器や農具 儒学のような新しい思想 孔子 始皇帝 長城 北方の遊牧民族 漢(漢)統治への反乱 漢武帝 シルクロード 仏教伝来 絹の貿易 紙の発明 漢字の官学化 漢句読 匈奴(後漢) 百濟 新羅	三大宗教 青銅器 鉄 身中の記述 文字
中世			近世の欄のみ ヨーロッパはこの欄で記載	天平文化 ムハンマド イスラム教 唯一神アラー コラン	メッカ 偶像崇拝の排除 イスラム商人 岩のドーム	隋 律令 アムルコボロー 世界の記述 高麗の金属活字印刷 明の建國	中世の欄のみ 東アジアはこの欄で記載 飛鳥文化 遣隋使 遣唐使 チンギスハーン フビライ(モン) 欧州から宣教師や商人などが訪れた 倭寇 冊封体制 琉球	唐 日宋貿易 元寇 日韓貿易 李成桂 李氏朝鮮
近世	ポルトガルのアフリカ西岸南下 喜望峯 ゴア 新大陸からの欧州への銀や砂糖の流出 大西洋三角貿易 コロンプス スペインのアメリカ文明征服 カルヴァン 市民革命 大西洋三角貿易 17世紀オランダの世紀 イエズス会 スペイン一日の沈まない帝国	ビザンチウム帝国 聖地エルサレム 再生 天文学、地理の発達 倫理科 喜望峯 スペインのアメリカ文明征服 アメリカ大陸は欧州の植民地(イエズス会) カルヴァン 市民革命 大西洋三角貿易 17世紀オランダの世紀 フロムウェル 抵抗権	キリスト教 十字軍 ルネサンス 地味球探検 世界地図 ポルトガル スペイン 西インド諸島 ルター マゼラン ニュートン 新大陸からの銀や砂糖の流入 スペイン一日の沈まない帝国 社会契約説 立憲君主制(定めの各管革命) ピューリタン革命 王権神授説	インド洋ではイスラム商人の活躍 聖地エルサレム 十字軍	ゴア	マカオ イエズス会 フランシスコ・サビエル スペイン一日の沈まない帝国		
近代	啓蒙思想 アメリカ独立革命 英本国による新しい税と弾圧に抗議して 独立宣言 人民主権 連邦制 三権分立を柱とする フリンソン	モンテスキュー ヴォルテール アメリカ独立革命 絶対王政 第一身分～第三身分 旧制度 パリでも地方でも立ち上がり フランス革命 ナポレオン ナポレオン法典 産業革命 インドの綿布が好評 工場で安いイギリス綿布が大量に生産され、輸出された 蒸気機関車 製鉄...などの産業も発達。資本主義 19世紀の半ばには世界の工場と呼ばれた 資本家と労働者の用語 自由主義という言葉 英：二大政党内閣制 独：鉄血政策 ビスマルク アジアに求めたのは、市場開放 ロシアの皇帝専制政治 南下政策 シベリア鉄道の建設 1900年代には、独：米が発表 露一革命	社会契約説 官徳と常備軍 第三身分が特権 人権宣言 ナポレオンの皇帝親任 英心の貿易禁止(封鎖令) インドの綿布が好評 社会問題 社会主義の説明 産業革命の波及 社会主義神学 農奴解放論の説明 英の日本支援 ロシアでも革命運動が起きる スズエルの開通 日清戦争 日露戦争 日露戦争 日露戦争 日露戦争 日露戦争 日露戦争	インド洋ではイスラム商人の活躍 聖地エルサレム 十字軍	ゴア	マカオ イエズス会 フランシスコ・サビエル スペイン一日の沈まない帝国	産業革命 労働問題の説明 社会主義の説明 人々の生活が大きく変わりました(資本主義)	
現代	米：移民 移民を大量に受け入れた 大陸横断鉄道 リンカン 1800年代後半には、独：米が発表 ポーツマス条約	自由貿易と奴隷制の対立 南北戦争 リンカン アフリカに輸出：植民地化 スエズ運河の開通 セシル・ローズの風刺画	モンテスキュー ヴォルテール アメリカ独立革命 絶対王政 第一身分～第三身分 旧制度 パリでも地方でも立ち上がり フランス革命 ナポレオン ナポレオン法典 産業革命 インドの綿布が好評 工場で安いイギリス綿布が大量に生産され、輸出された 蒸気機関車 製鉄...などの産業も発達。資本主義 19世紀の半ばには世界の工場と呼ばれた 資本家と労働者の用語 自由主義という言葉 英：二大政党内閣制 独：鉄血政策 ビスマルク アジアに求めたのは、市場開放 ロシアの皇帝専制政治 南下政策 シベリア鉄道の建設 1900年代には、独：米が発表 露一革命	インド洋ではイスラム商人の活躍 聖地エルサレム 十字軍	ゴア	マカオ イエズス会 フランシスコ・サビエル スペイン一日の沈まない帝国	産業革命 労働問題の説明 社会主義の説明 人々の生活が大きく変わりました(資本主義)	
現代	アメリカの参戦 ワイルソン 国際連盟 米：独への不参加 常任理事国は、英仏伊日 (米の永遠の繁栄) 説明のみ(繁栄が続き、発言力増す) フリンソン会議 中国の領土保全 日英同盟破綻 米の大衆文化(映画・ラジオ・自動車) 米は1st Warの被害を受けず 1st War後、米は世界経済の中心 1929年 株値大暴落 ニュー・ディール政策 公共事業をおこし ブロック経済 ロンドン軍縮会議 太平洋戦争	アフリカ分割 三國同盟 三國協約 ヨーロッパの火薬庫 スラブ民族や正教会の支援 1st Warの性質(詳細) ロシア革命(詳細) ソヴェト各地に成立 ソヴェトに對する、土地・権力の各布告の説明 シベリア出兵 共産主義 ベルサイユ条約 国際連盟 常任理事国は、英仏伊日 ドイツの国際連盟加盟 英の守衛的閉鎖 重工業中心の工業化計画(経済) ソヴェトに於ける工業化 独のナチス 他の政党を排除させ 公共事業と軍需産業で失業なくす ポーランド侵攻 (廣義同盟)秘密警察によって国民を統制する アフリカに於ける不可侵論 レニスタス オランダ・ベルギーの占領	三國同盟 三國協約 ヨーロッパの火薬庫 スラブ民族や正教会の支援 1st Warの性質(詳細) ロシア革命(詳細) ソヴェト各地に成立 ソヴェトに對する、土地・権力の各布告の説明 シベリア出兵 共産主義 ベルサイユ条約 国際連盟 常任理事国は、英仏伊日 ドイツの国際連盟加盟 英の守衛的閉鎖 重工業中心の工業化計画(経済) ソヴェトに於ける工業化 独のナチス 他の政党を排除させ 公共事業と軍需産業で失業なくす ポーランド侵攻 (廣義同盟)秘密警察によって国民を統制する アフリカに於ける不可侵論 レニスタス オランダ・ベルギーの占領 ドイツ侵攻	インド洋ではイスラム商人の活躍 聖地エルサレム 十字軍	オスマン帝国の衰退 日英同盟を理由に(日本参戦) シベリア出兵 国際連盟 常任理事国は、英仏伊日 フリンソン会議 ロシアの軍備縮小 日英同盟破綻 二十一条の要求 五・四運動 蒋介石 中国の統一に乗り出しました(北伐) 清朝最後の皇帝溥儀 滿州事変 日本国内閣連立 1938年には、ソヴェトと日露戦争の期限切れ 日中戦争 盧溝橋事件 (第二次国共合作) 米英の国民政府援助 日独伊三國軍事同盟 大東亞共榮圈 日の侵襲(インド)侵攻 太平洋戦争 ミッドウェー海戦 サイパン島陥落 ポツダム会議	日英同盟を理由に(日本参戦) シベリア出兵 国際連盟 常任理事国は、英仏伊日 フリンソン会議 ロシアの軍備縮小 日英同盟破綻 二十一条の要求 五・四運動 蒋介石 中国の統一に乗り出しました(北伐) 清朝最後の皇帝溥儀 滿州事変 日本国内閣連立 1938年には、ソヴェトと日露戦争の期限切れ 日中戦争 盧溝橋事件 (第二次国共合作) 米英の国民政府援助 日独伊三國軍事同盟 大東亞共榮圈 日の侵襲(インド)侵攻 太平洋戦争 ミッドウェー海戦 サイパン島陥落 ポツダム会議	第一次世界大戦 協約国 新兵器 ロシア革命の各地波及 ベルサイユ条約 民族自決 欧州以外の民族自決は考慮されず 独の莫大賠償金 軍備縮小 ワイルソン 国際連盟 フリンソン会議 世界恐慌 1929年 株値大暴落	

	アメリカ	アフリカ	ヨーロッパ	西アジア	南・東南アジア	東アジア	全体	
第二次世界大戦後	核兵器 冷たい戦争(冷戦)		東西対立・冷戦 東西ドイツ 核兵器	冷たい戦争(冷戦) 核兵器	1954年以降、南北に分かれた ベトナム戦争 アメリカの介入	GMO(連合国軍総司令部) マッカーサー 中華人民共和国の成立 朝鮮戦争 1948年には南北朝鮮の成立 米中心の国連軍が韓国を支援 1953年、休戦協定 サンフランシスコ平和条約 日中共同声明	国際軍事裁判(東京裁判) 台湾政府(アメリカ支援) 38°Nで米ソ分割占領 中国の義勇軍が 北朝鮮を支援 日米安全保障条約 日ソ共同宣言 日韓基本条約 日中平和友好条約	東西対立・冷戦 国際連合(国連) 安全保障理事会 五大国の説明 NATO ワルシャワ条約機構 アメリカを中心とする西側陣営 ソ連を中心とする東側陣営 (フランス語) 1955年東洋紛争が拡大 多極化 緊張緩和(チタート) サミット(主要国首脳会議)
	キューバ危機	アジアアフリカ会議	NATO	ワルシャワ条約機構				
	ケネディ	1960年、アフリカの年 (17カ国の独立)	EU成立	フルシチョフ	石油危機 第四次中東戦争	1976年、ベトナムの統一		
	サミット(主要国首脳会議)		EU成立	ゴルバチョフ				
			アフガン侵攻		クウェート侵攻		アジアアフリカ会議	
	同時多発テロ		東西ドイツの統一 ベルリンの壁崩壊(写真)	ソ連の解体 ユーゴ紛争	湾岸戦争 イラク戦争			

表1で示した中学校の世界史的内容の用語・文章を高校世界史B新学習指導要領の中項目(以下、中項目)で分類し、全体の総数に対するその用語数を割合で示すと右のような図1となる。「中項目」を使用する理由は、「中項目」が時代区分として利用できるからであるが、図1から読み取れる点は、次の二点である。

- ① 時代で示すと「19世紀後半の帝国主義以降から現在」にあたる内容(5)のみだけで全体の47%を示しているという点である。
- ② 近代以降の時代として、「産業革命・フランス革命・アメリカ独立革命以降」の内容(4)ウまで遡れば、全体の63%にまで達する点である。

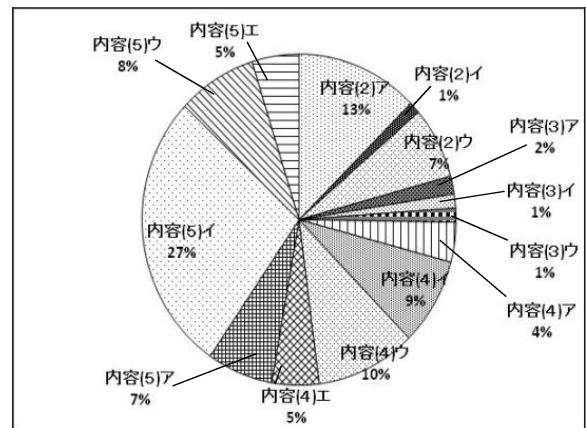


図1 中学校世界史の用語・文章の中項目別による割合

さらに、この二点は、現在使用中の中学校教科でも同様な傾向であった。つまり、世界史的内容の用語・文章数が、現在の「290」から平成24年度用の教科書の「517」と大幅増加にもかかわらず、全体の割合には大きな変化がなかったのである。

因みに、以下に時代区分として使用した「中項目」を記しておく。

＜高校世界史B新学習指導要領 中項目一覧＞

内容(2)ア	西アジア世界・地中海世界	…	古代～ササン朝	古代～ローマ帝国(東西分裂)
内容(2)イ	南アジア・東南アジア	…	古代～ヴァルダナ朝	
内容(2)ウ	東アジア・内陸アジア	…	古代～隋・唐	
内容(3)ア	イスラーム世界の形成と拡大	…	7世紀～14世紀のイスラーム世界	
内容(3)イ	ヨーロッパ世界の形成と展開	…	5・6世紀～14世紀のヨーロッパ世界	
内容(3)ウ	内陸アジアの動向と諸地域世界	…	7世紀～14世紀の内陸アジアがユーラシア大陸において果たした役割	
内容(4)ア	アジア諸地域の繁栄と日本	…	16世紀～18世紀までのアジア諸地域	
内容(4)イ	ヨーロッパ世界の拡大と大西洋世界	…	16世紀～18世紀までのヨーロッパ地域	
内容(4)ウ	産業社会と国民国家の形成	…	18世紀後半～19世紀までのヨーロッパ・アメリカ世界	
内容(4)エ	世界市場の形成と日本	…	19世紀のヨーロッパとアジア	
内容(5)ア	帝国主義と社会の変容	…	19世紀後期～20世紀初期までの世界	
内容(5)イ	二つの世界大戦と大衆社会の出現	…	第一次世界大戦～第二次世界大戦	
内容(5)ウ	米ソ冷戦と第三世界	…	第二次世界大戦終結～1960年代まで	
内容(5)エ	グローバル化した世界と日本	…	1970年代以降の世界	

※中項目のタイトル後の「…」以降は、筆者が付した解説である。

※大項目内容(2)～(5)の最後にある中項目は「主題学習」に関するものであるため、時代区分として語句分類に適さないものとして省いている。

次に高校世界史からの分析として、大学入試センター試験の過去問題より正誤判断における重要語句を抽出する作業を行う。

2 大学入試センター試験の世界史問題(2001年度～2011年度)より、問題を解く上で必須の歴史的事象語句をすべて抽出し分析する。

2001年度から2011年度の大学入試センター試験問題の各小問における選択肢①～④より、正誤判断をする上でポイントとなる用語・語句を抽出する。各選択肢より重要語句の抽出数は約2つが平均である。

＜例：2010年度 第2問 問2＞

問2 下線部②の時代(魏晋南北朝時代)の文化について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 韓愈が、古文の復興を唱えた。
- ② 書の分野では、王羲之が有名である。
- ③ 顧炎武が、『女史箴図』を描いた。
- ④ 梁の昭明太子が、『齊民要術』を編纂した。

①の文章からは、「韓愈」という人物を、もしくは「古文の復興(古文復興運動)」の内容を理解しておれば、正誤が判断できる。(波線部は、正誤判断の基準となる箇所、以下同様である。)

・韓愈…唐中期の人物唐宋八大家の一人。四六駢儷体を批判した古文復興を提唱した。

・古文の復興…唐宋時代に六朝の四六駢儷体を批判し、漢代以前の古文を奨励・提唱した運動。

→ 以上より、魏晋南北朝時代に該当しないことがわかる。

②の文章からは、「王羲之」という人物を理解しておれば、正誤が判断できる。

・王羲之…東晋(魏晋南北朝時代に該当)において、書聖と呼ばれた大家。「蘭亭序」で有名。

→ よって、正しい文章であるとわかる。

③の文章からは、「顧炎武」という人物を、もしくは『女史箴図』を理解しておれば正誤判断ができる。

・顧炎武…明末清初の人物。考証学という儒学一派の代表的な人物。

・女史箴図…東晋の顧愷之が描いた絵画

→ 以上より、誤っている文章であるとわかる。

④の文章からは、「梁の昭明太子」という人物を、もしくは『齊民要術』を理解しておれば、正誤判断ができる。

・梁の昭明太子…梁(魏晋南北朝時代)の王子。『文選』(詩文集)を編纂した。

・齊民要術…魏晋南北朝時代(厳密には北魏)における農業書。

→ 以上より、誤っている文章であるとわかる。

従って、この問題からは、「韓愈」、「古文の復興(古文復興運動)」、「王羲之」、「顧炎武」、「女史箴図」、「梁の昭明太子」、「齊民要術」の7つを抽出した。

※問題によっては、正誤判断のための語句ではなく、「観点・視点」を挙げた問題も存在する。

以上のように、抽出した用語・語句は、延べ数にして「2144」の数に上った。この抽出語句については、「高校生学力向上事業世界史部会」より各高校に配付されたセンター試験対策過去問題集に、Excelデータの世界史用語集として新しく設置した。その用語・語句をクリックすることで、その用語が出現された実際の過去問題にリンクできるようなリンク集の教材とした。

さらに、この抽出語句と表1の中学校での語句を、前ページで記した中項目ごとに分類し、その中項目の数である14の一覧表を作成した。すべての掲載はページ数が限られているため割愛するが、その中より次ページに「資料11」(表2)をその一例として紹介した。この14項目の一覧表も資料として、中学校の世界史的内容語句と大学入試センター試験の抽出語句との繋がりや関連を考察し、「中高接続」の糸口を探ることとする。

表2 「資料11 内容(5)ア」 センター試験抽出語句は「110」、中学校教科書の語句は「37」

14章	ア 帝国主義と社会の変容 科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、国際的な移民の増加などを理解させ、19世紀後期から20世紀初期までの世界の動向と社会の特質について考察させる。				
センター試験出題用語	英のスエズ運河会社株の買収 ジョゼフ=チェンバレン シン=フェイン党の内容 スエズ運河会社 南ア戦争 ドレフュス事件 社会主義者鎮圧法 社会革命党 ストルイピン 血の日曜日事件 ドゥーマの開設計束 ポリシェヴィキ メンシェヴィキ 立憲民主党 セオドア=ローズベルト 第二インターナショナル 3C政策 アフリカへの派遣者 アラビー=パシヤ イタリヤとエチオピア エチオピア侵攻 カメルーン	スーダン(19世紀後半) セシル=ローズ 第一次:第二次モロッコ事件 トランスヴァール金の鉱 トリポリ=キレナイカ フランスの進出先 マダガスカル ファシヨダ事件 マフディー派の抵抗 マフディー派の発生した国 マフディー=スーダン リベリア カメルーンの宗主国は? エチオピア セオドア=ローズベルト イタリヤの進出先 オランダの進出先 アポリジニー オーストラリアの自治の時期 米西戦争 グアム グアムの宗主国は?	ドイツの太平洋植民地 ハワイ 米国のハワイ併合 マーシャル諸島の宗主国は? マオリ人 サバタとは? シモン=ポリバル ディアスとは? パン=アメリカ会議 マデロも 3B政策 三国同盟 ボスニア=ヘルツェゴヴィナ 広州湾 膠州湾 三国干渉 中国分割 門戸開放宣言 福建省 露の旅順・大連租借(三国干渉) 義和団事件 義和団事件の発生地	義和団事件の列強参加国は? 義和団のスローガン サハリン 日露戦争 北京議定書の内容 ポーツマス条約 中国でのキリスト教布教の自由 伊藤博文 朝鮮総督府 海外移住 華僑が多い時期は? 華僑が登場している期間は? 興中会 三民主義 民権主義 民生主義 民族主義 科挙廃止 四川暴動(幹線鉄道国有化運動) 中華民国 都が南京(中華民国) 辛亥革命の時にモンゴル独立	辛亥革命の蜂起場所 宣統帝(溥儀) 外モンゴルの独立時期 モンゴル人民共和国 モンゴル人民共和国 インド国民会議派 インドの民族運動 4大綱領 カルカッタ大会 スワデーシー スワラージ 全インド=ムスリム連盟の成立時期 テラク ベンガル分割令 維新会(ヴェトナムにしかない) サレカット=イスラム(イスラム同盟) サレカット=イスラムはどこ? 20世紀にイラン革命(立憲革命) イラン立憲革命 タバコ=ボイコット運動 ミドハト憲法の年代 (イギリスの各自治領の成立時期)
中学分野	19Cの後半には、独・米が発展 第二次産業革命の説明 日英同盟 三民主義 武昌の反乱が契機 アフリカに進出:植民地化 中国分割 19Cは、英仏が中心 → 19C末、独の台頭 → 米露の追い上げ				

延べ数「2144」の抽出した語句より、抽象的な語句・複数回抽出語句などを省いて精選した「大学入試センター試験抽出語句」(以下、センター抽出)と「中学校教科書からの用語・文章」全数をそれぞれ100%として、中項目ごとの割合と語句の実数を記したのが、下の図2である。このグラフからは、中学校では63%を占めている「近現代」であるが、「センター抽出」では、わずかに38%にすぎないことがわかる。世界史Bは古代からの通史であるため、「近現代」の割合が約5分の2であることは、決して少なくなく妥当である。

よって、いかに「近現代」に中学校の世界史的内容用語が集中しているかがわかる。

従ってこの状況から、「現代史の段階では高校でも『世界史』『日本史』の区別を廃止し、むしろ『世界史』『日本史』の一体化が望ましい」(油井 2010)として「歴史基礎」という科目設定を唱える識者の方々も存在する。また、大阪大学大学院教授森安氏に代表されるように、文部科学省の規定とは異なる新しい世界史を提唱・作成する動きも見られる。

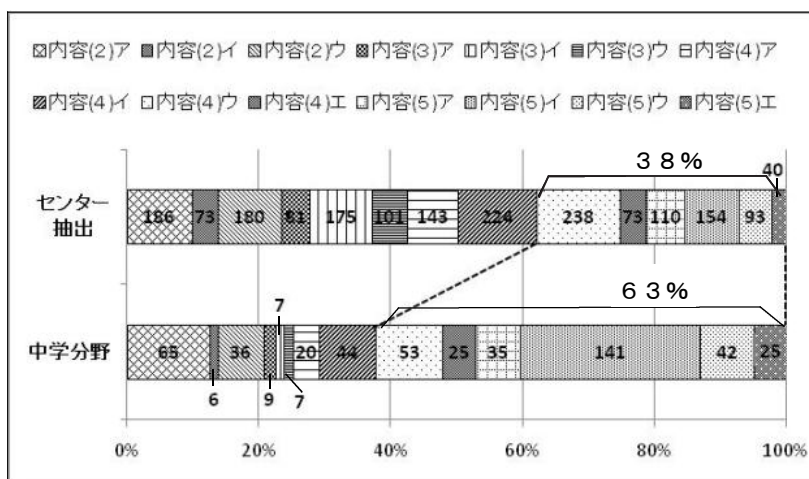


図2 大学入試センター試験抽出語句と中学校世界史的内容用語・文章の中項目別による割合と実数

しかし、いかに中学段階において世界史事象の語句が数多い時代でも、中学段階の語句数と高校段階で必要とされる語句数では、かなりの差が存在する。前掲の図2の数字からも推測できるが、右の図3によって明確にわかる。

従って、近現代史の分野でも安易に中学段階で多くの部分を学習済みとしてとらえるべきではないのであり、中学段階での学習を踏まえて、高校段階で効果的・効率的な学習に取り組め

るよう中学校での学習と高校での繋がりや接続、連続性を構築する必要があると考える。よって、次項から中学校の学習内容と高校の学習との接続の在り方についての考察・検証を行う。

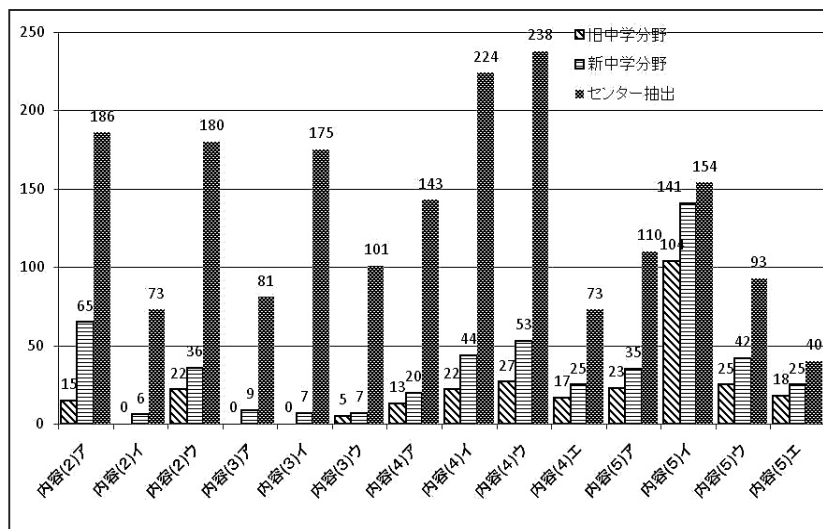


図3 センター試験抽出語句と中学校世界史的用語・文章の中項目別による実数

3 望ましい中高接続・関係について、アンケート調査から考察する。

ここでは、中学校の世界史的学習内容と高校世界史の望ましい繋がりの方を模索するために、福井市を中心とする高校生約460名に実施したアンケートの分析を利用して、中高接続・関係の在り方を考察したい。

(1) 地理歴史・公民科に対する意識から

ここで取り上げる質問項目と結果は、以下の五つである。

質問①「社会に出てから役立つ教科は何だと思いますか」

質問②「受験に役立つ教科は何だと思いますか」

質問③「高校入学後に興味をもった(高まった)教科は何ですか」

質問④「地歴・公民の勉強は社会の一員としてよりよい社会を
考えることができますか」

質問⑤「地歴・公民の勉強は入試や就職試験に関係なくても大切だと思いますか」

質問①と②では、地歴・公民科としている生徒は、それぞれ8%、4%と、第1位の英語に比べるとはるかに少数である(図4、図5)。

しかし、質問③に注目してほしい。この項目では、地歴・公民が数学、英語、理科に比べてわずかであるが上回り、20%ながらトップである(図6)。さらに続いて、質問④と⑤を見るとこの二つに関しては、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答している生徒が、それぞれ約半数もしくは、半数以上存在している(図7、図8)。

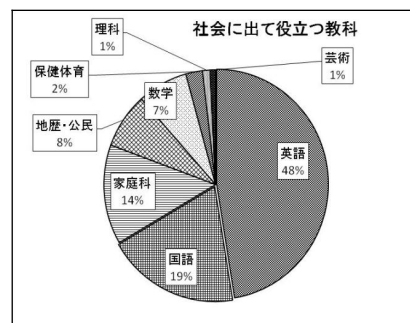


図4 質問①

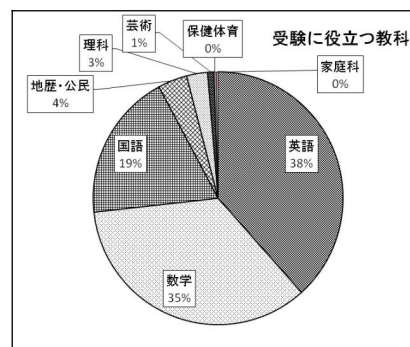


図5 質問②

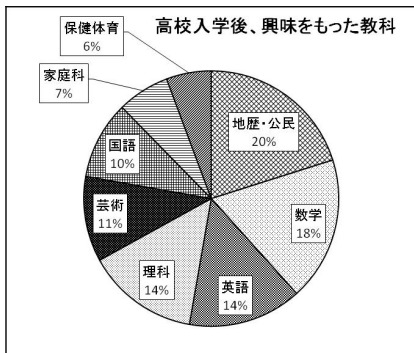


図6 質問③

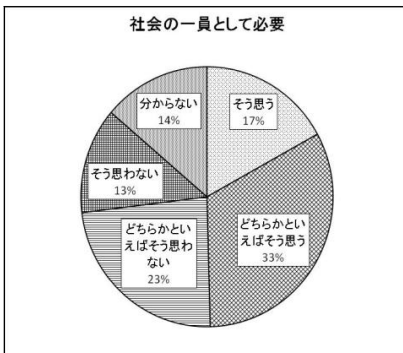


図7 質問④

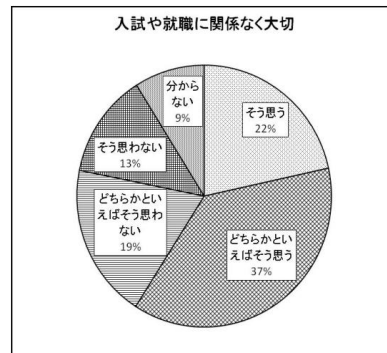


図8 質問⑤

以上の質問①～質問⑤の結果から、生徒たちは地歴・公民科に対して、実利的ではないととらえているが、興味・関心をもち、社会生活や将来の上では大切であると考えていると判断することができる。つまり、地歴・公民科の学習に対する意識は低くなく、授業や学習に対して前向きな姿勢をもち合わせており、授業者の創意工夫によって十分な成果が期待できると考えられる。

(2) 世界史学習の素材に関して

続いて、具体的な学習素材についての考察へ移る。ここでも、前述の(1)と同様の高校生に対して行ったアンケートの結果を用いることとする。

ここで取り上げる質問項目は、以下の四つである。

質問⑥「歴史学習で重要な時代と思う時代区分を答えて下さい」

質問⑦「あなたが興味をもつ時代区分を答えて下さい」

質問⑧「地歴・公民科の中で将来一番役立ちそうな科目は何ですか」

質問⑨「地歴・公民科の中で最も教養が高められる科目は何ですか」

※質問⑥、⑦の選択肢は、どちらも、以下の六つである。

- ・「古代(中世以前)」
- ・「中世(5世紀～15世紀)」
- ・「近世(15世紀末～18世紀後半)」
- ・「近代(18世紀後半～第一次世界大戦勃発前)」
- ・「現代(1914年の第一次世界大戦前後～)」
- ・「分らない」

まず、質問⑥と⑦であるが、両問とも「現代」、「近代」、「近世」の三つの時代で上位三つを占めている。特に質問⑥については、「現代」、「近代」がともに最も多い25%で、質問⑦の結果とともに考えると、生徒たちが「近現代」を学習素材として重要と考えているだけでなく、興味ももっていると判断できる(図9、図10)。

さらに、質問⑧と⑨の結果からは、生徒たちが地歴・公民科の中で、実利の上でも役に立ち、内面的な知識面でも役に立つととらえている上位2科目は、「政治・経済」と「現代社会」であることが

わかる(図11、図12)。つまり、生徒たちは、自分が生きている、今、現在の社会の様々な状況や問題についての知識・理解などを求めていると推測できるのである。それは、すな

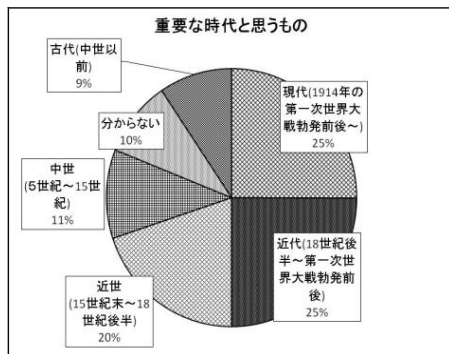


図9 質問⑥

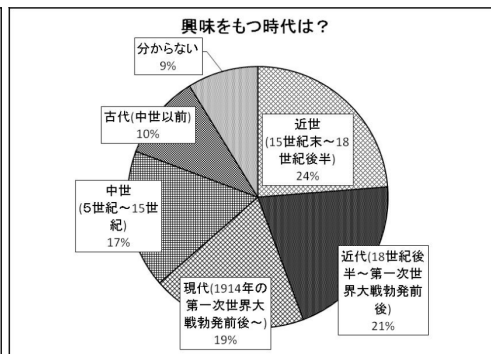


図10 質問⑦

わち「政治・経済」「現代社会」で扱う様々な問題や各地域・各国の社会情勢の要因や背景などが、生徒の求めている世界史学習の一つであると考えられる。

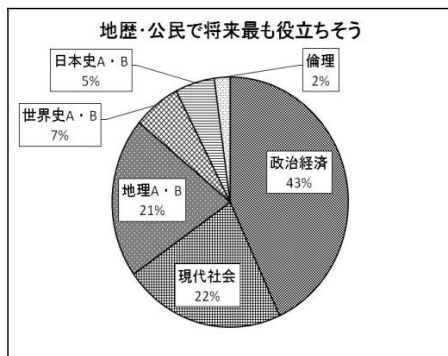


図11 質問⑧

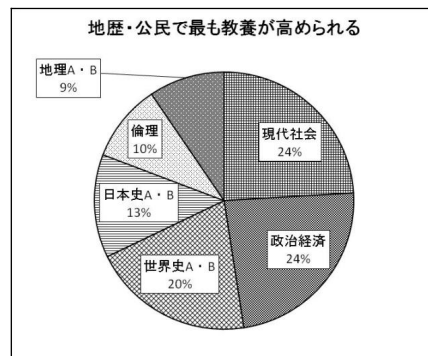


図12 質問⑨

以上から、時代区分としても、政

治思想や経済思想まで考慮すれば、現在の社会・経済や政治などの淵源と見なされる歴史的な事象を、資本主義経済の萌芽が見られた「ヨーロッパの大航海時代」の15世紀末まで遡ることができる。これは、質問⑥と質問⑦で上位を占めた三つの時代区分、「近世」、「近代」、「現代」と全く一致する。ここで、(1)と(2)のアンケート結果からの考察をまとめると、以下の四点となる。

- ① 生徒たちの地歴・公民科に対する学習意欲は低くなく、前向きな姿勢をもっている。
- ② 地歴・公民科の中では、公民科目を教養面でも実利面でも重要視している。
- ③ 歴史の時代区分では、「近現代」（「産業革命・フランス革命・アメリカ独立革命」以降から「現在」）の時代を重要と見なし、興味ももっている。
- ④ 公民科目と世界史の関連が大きい時代も「近現代」である。

それでは、次項で、ここまでの **1**、**2**、**3** を考慮し、実際の授業例の案を提案したい。

4 中・高接続や関係構築への模索

ここからは、中・高の世界史学習内容の接続もしくは関係の構築が可能であると考えられる近現代史分野で、どのような授業内容の構築を図ればよいかを考察してみたい。主題設定でも述べたように、高校の授業者からの立場で、中学校の学習内容との繋がりを考慮した授業として考える。まず、繋げ方の基本的な概念モデルを提示する。それが、図13である。概略すると、以下の通りとなる。

- ① 基本的知識として、中学段階における世界史的内容の用語・文章を提示する。…図13の歴史的な事象A
- ② 上記①で提示したAから関連・派生する中学段階の世界史的内容、または高校段階の世界史的事象を提示する…図13の事象B、事象B'
- ③ 上記②のB・B'から関連・派生する世界史的事象を順次繋げていく。…図13の事象C・事象D、事象C'・事象D'
- ④ 上記の事象A～事象Dが1つの小セットで、ある歴史的な事件やある歴史的な影響など、ある程度の大きさで歴史的な構成を提示することができる。これを、中学校新学習指導要領では「構造化」としている。

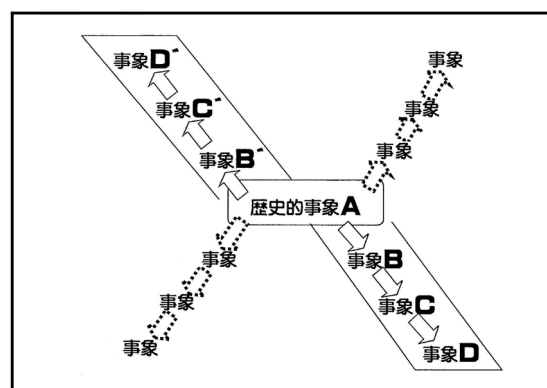


図13 授業概念図
 (『中学校教育課程講座 社会』2009 より作成)

- ⑤ 事象A～事象Dだけでなく事象A～事象D'や点線矢印を含めた図13全体で、ある歴史的な枠組みを提示することができる。

この歴史的な枠組みの大きさは、授業者の授業計画や素材に対する考え方でいかようにも変えることができるため、このモデルであれば歴史的素材をどのように繋げ、どの枠組みで組み立てるかは、授業者の裁量が大きく働く。よって、この概念モデルをもとに中学段階の世界史的内容から高校段階の世界史的事象へ段階的に発展していく構造も構築できるはずである。

これを踏まえて、図13の概念図に基づいた授業案例を提示したい。「政治経済」や「現代社会」などの関連や中学校の世界史的内容語句とセンター抽出語句の分析を考慮して、第二次世界大戦直後に当たる「内容(5)ウ」から、「冷戦」に関する授業例を考えた。中学校教科書の世界史的内容の箇所を下線部を引くと、以下のようになる。

＜第7章 現代の日本と世界 1節 日本の民主化と国際社会への復帰 2 二つの世界とアジア＞

国際連合と冷戦

1945(昭和20)年10月、連合国は、①二度の世界大戦が起きたことを反省し、戦後の平和を維持する機関として、②国際連合(国連)をつくりました。

しかし、「超大国」として力をもつようになった③アメリカとソ連は対立するようになり、政治と経済のしくみが大きくちがうお互いの陣営に、世界の国々を引き入れようと競い合うようになりました。こうして、④ソ連が東ヨーロッパ諸国を支配し、アメリカが西ヨーロッパ諸国を支援したため、ヨーロッパはソ連を中心とする東側陣営と、アメリカを中心とする西側陣営に分裂されました。そのため⑤ドイツは、1949年、東西に分断されてしまいました。さらに、1949年に⑥ソ連に原子爆弾の保有が明らかになると、⑦両国は、おたがいに軍事的優位に立とうとして、核兵器をふくむ兵器を増強する競争を始めました。

このような東西両陣営間のきびしい対立は、⑧冷たい戦争(冷戦)といわれ、⑨その影響は、世界各地におよびました。

(続いて) **植民地の開放とアジア** の項目へと流れる。

- ①の「二度の世界大戦」は歴史的事象の用語。ただし、ここで初めて学習するものではない。
- ②の「国際連合」は、歴史的・社会的事象の用語。
- ③の「アメリカとソ連は対立するようになり、……」は、後の下線部④～⑨に繋がる状態を説明。
- ④の「ソ連が……、アメリカが……」は、下線部⑤にも繋がる「東西対立」の発生の背景であるヨーロッパの状況と、ヨーロッパのみならず世界に広がった「冷戦」の二大陣営を婉曲的に説明。
- ⑤の「ドイツは、東西に分断」は、「東西対立」、「冷戦」の象徴的な歴史的事象。
- ⑥の「ソ連の原爆保有……」は、下線部⑧・⑨にも関連してくる歴史的事象の説明。
- ⑦の「両国は、おたがいに……」は、歴史的事象である核兵器開発と核兵器拡散の状況の説明。
- ⑧の「冷たい戦争(冷戦)」は、「冷戦」という歴史的・社会的事象の用語。
- ⑨の「その影響は各地におよびました」は、「冷戦」の様々な影響や状況の抽象的説明。

次に、この中学校教科書記述範囲に該当する、センター試験抽出の語句は以下の通りとなる。下記の語句以外にも、歴史的に重要な用語・語句が存在するのは言うまでもない。

・4カ国分割占領	・GATTとその目的	・IBRD	・IMF
・国際連合	・国際連合憲章の採択	・サンフランシスコ会議	・大西洋憲章
・ニュルンベルク国際軍事裁判所	・アデナウアー	・コミンフォルム	・ドイツ連邦共和国
・ドイツ民主共和国(東ドイツ)	・トルーマン=ドクトリンの内容		・ブリュッセル条約
・NATOの成立	・ベルリン封鎖	・ベルリン空輸	・マーシャル=プラン
・ユーゴのコミンフォルム除名	・インドシナ戦争		・ヴェトナム共和国
・ヴェトナム民主共和国	・抗日運動	・ジュネーブ休戦協定	・スカルノ
・ビキニ諸島	・パグウォッシュ会議	・核兵器禁止運動	・INF

前ページに挙げた「国際連合と冷戦」に関するセンター試験抽出語句や他の高校世界史事象を、中学校教科書のどの記述に対応させるかを考えると、下記の表になる。

世界史事象	左記の下線部で説明可能なセンター試験からの抽出語句や関連語句
下線部①	既習事項であるが、「…大戦の反省」までを考慮すると、 ・ニュルンベルク国際軍事裁判所 ・GATTとその目的 ・IBRD ・IMF
下線部②	・国際連合 ・国際連合憲章の採択 ・サンフランシスコ会議 ・大西洋憲章
下線部③	この記述以降の状況説明であるため、ここでのセンター試験抽出語句なし
下線部④	・トルーマン＝ドクトリンの内容 ・コミンフォルム ・マーシャル＝プラン 戦後直後のヨーロッパにおける対立の状況説明。「東西対立」の語源となる歴史的事象
下線部⑤	・4カ国分割占領 ・ドイツ連邦共和国 ・ドイツ民主共和国(東ドイツ) ・アデナウアー ・ベルリン封鎖 ・ベルリン空輸
下線部⑥	下線部⑦に繋がる核拡散の契機となる歴史的事象
下線部⑦	核兵器関係と軍事同盟関係の2つの範疇で説明可能 (核関係)・ビキニ諸島 ・パグウォッシュ会議 ・核兵器禁止運動 ・INF ◎(上記以外の)高校世界史段階の核兵器保有国や反核運動の名称も説明する。 (軍事同盟)・ブリュッセル条約 ・NATOの成立 ・ユーゴのコミンフォルム除名 ◎(上記以外の)高校世界史段階の多くの東西対立軍事同盟名称も説明する。
下線部⑧	「冷戦」という、この項目全体の歴史的事象用語であるため、センター試験抽出語句なし
下線部⑨	・インドシナ戦争 ・ジュネーブ休戦協定 ・(中学校教科書で次項となる朝鮮戦争など) ・ヴェトナム共和国 ・ヴェトナム民主共和国 ◎下線部⑦の同盟やその他の同盟などが、その後の歴史や現在に与えた影響を説明する。

以上より、この小単元での下線部の箇所を、前述の概念図モデル図13を適用して図示すると以下の図14のような構造になる。歴史的事象Aに下線部③の「アメリカとソ連は対立するようになり、政治と経済のしくみが大きくちがうお互いの陣営に、世界の国々を引き入れようと競い合うようになりました。」を置き、各事象A～D、A～C'で、高校段階の学習内容やセンター試験抽出語句を関連させて学習する授業案である。

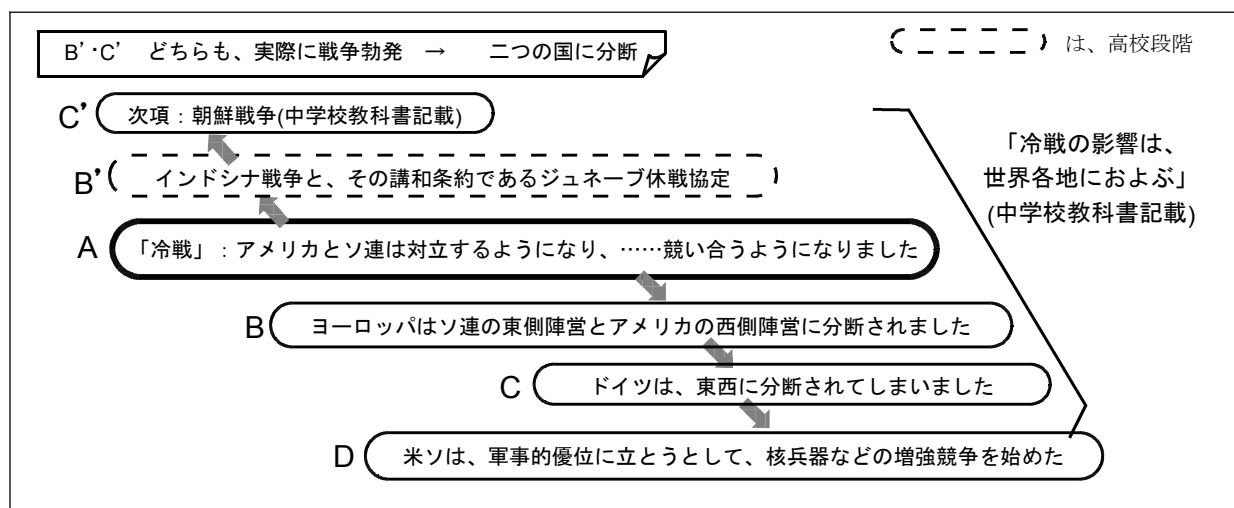


図14 「国際連合と冷戦」における中高関係を考慮した授業概念図

以上のように、中学校教科書の世界史的内容の記述をもとに、その内容が詳細になる方向で高校世界史の歴史的事象やセンター試験抽出語句を関連付けることができる。よって次項では、中学校教科書を使用した高校世界史として授業を行い、この授業がどう生徒たちに捉えられるのかを授業者の感想や事後のアンケートを通して考察する。

5 中学校教科書を使用した授業実践

前項「4 中・高接続や関係構築への模索」で示した「冷戦」を素材にした授業構成で、研究協力員の先生方に実際に授業を行っていただいた。その後、生徒たちに対して行ったアンケート結果を踏まえて、中学校教科書を使用した高校世界史の学習内容に繋げる授業に対する検証を行った。

(1) 授業構成について

- ①単元 (中学校)日本の民主化と国際社会への復帰 (高校)東西対立の始まりとアジア諸地域の自立
- ②小単元 (中学校)二つの世界とアジア 国際連合と冷戦
(高校)戦後の国際政治・経済秩序 ヨーロッパの東・西分断
- ③使用教科書 (中学校)平成22年度版『新編 新しい社会 歴史』(東京書籍)
(高校)平成22年度版『詳説 世界史』(山川出版社)

(2) 目標 中学校教科書の記述を通して、歴史的事象の構造化に関する学習活動を行い、中学校の世界史的内容と高校世界史の内容と関係させることで、理解の定着を深める。

(3) 対象生徒 3年生文系 3講座 計100名

(4) 授業展開(概略)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入	1 目標の理解	・各自が中学校教科書を使用する目的を確認する。	・中学校教科書の記述が歴史的事象の概略や核の部分であることを説明する。
展	2 中学校教科書の読解	・中学校の教科書を読み、歴史的事象の大まかな内容と流れを把握する。	・歴史的事象の用語や語句だけに注目するのではなく、「ストーリー」として読むよう指示する。
	3 中学校教科書の内容理解	・中学校教科書の内容を構造的に理解する。	・中学校教科書記載の歴史的事象の因果関係に気付くようにする。
	4 高校世界史教科書の読解	・高校世界史教科書を読み、中学校教科書にない歴史的事象などに気付く。	・高校世界史のみの歴史的事象語句や内容に気付くよう指導する。
開	5 中・高の歴史的事象の連係(連繫)	・中学校教科書の記述に高校世界史の内容やセンター問題抽出語句を繋げる。	・中学校教科書のどの記述部分に、高校のどの歴史的事象が繋がるかに気付くよう指示する。
まとめ	6 中学校教科書と高校教科書の再読	・中学校教科書と高校教科書を読み比べる。中学校教科書の記述が、高校教科書のどこに符合するか気付く。	・中学校教科書の記述が、高校ではどう詳細になっているかに気付くよう指示する。

(5) 授業の実際

上記の概略のもと、授業を行っていただいた先生方の感想は大きく以下の二点である。

第一は、「中学校教科書の記述が、歴史的事象やその因果関係などを言語で表す最も平易な表現として利用できる」点である。従って、中学校教科書の記述を参考に大まかな歴史の概観を表す文章や歴史的事象の因果関係の説明などが行えると判断でき、我々に新学習指導要領の特徴でもある言語活動に何らかの指針を与える可能性を有している。

第二は、「生徒たちが、高校世界史の歴史的事象や学習内容を中学校教科書のどこの部分に符合するのかを調べる際に、能動的な態度が如実に表れ、自らが学習し理解する活動として成立している」点である。よって、通常の授業では往々にして、「地理歴史・公民科(社会科)は暗記」と言われがちな傾向を克服できる授業が展開される可能性を大いに有している。

以上より、中学校教科書を使用した高校世界史の授業は、従来より指摘されていた地理歴史・公民科(社会科)の問題点や弊害を打破できる一手法としても有効であると期待できる。

それでは、次に、生徒たちのアンケートからの検証を行う。

(6) 授業後のアンケートから

質問項目は、次の3項目である。

質問①「今回の中学校教科書を使用した授業は、分かりましたか」

質問②「中学校の教科書を読んだ後に、高校の教科書を読むと内容が分かりますか」

質問③「高校教科書の記述事項や内容が、中学校教科書のどの記述に該当するか分かりますか」

この質問①～質問③をまとめると、以下のようになる。

	よく分かった(人)	どちらかといえば分かった(人)	どちらかといえば分からなかった(人)	分からなかった(人)	計(人)
質問①	51	46	3	0	100
質問②	24	62	10	4	100
質問③	25	43	13	9	100

質問①～質問③に進むにしたがって、「よく分かった」「どちらかといえば分かった」が減少するが、①～③に進むにつれ歴史的事象に対する認識の詳細さや専門性が求められるため、自然な結果である。

しかし、注目すべきは質問③の結果である。質問内容の「高校教科書の記述事項や内容が、中学校教科書のどの記述に該当するか分かるか」は、次の二点を示していることになる。

- ・概念図13を生徒が利用できること。
- ・授業構成案の図14が生徒自らが理解できていること。

この二点について「よく分かった」「どちらかといえば分かった」と答えた生徒が、60名を超え70名近く存在することから、この授業が有効・有益であったと判断できる。

V 研究のまとめと今後の課題

世界史学習における中学校の学習内容と高校との接続や関係の在り方を考察し、その一試案として中学校教科書を利用する高校世界史の授業の有益性を実証・提示できた。中学校教科書を利用する授業を題材にしたねらいは、多くの先生方に特別な資料準備を必要とせず、できるだけ無理なく実践できるような汎用性をもたせたいためであったが、そのねらいも満たせたと感じている。

先行研究が数少ない中で、本研究によって明らかになった点を大きくまとめると以下の三点である。第一は、「中学校の世界史的内容の記述が欧米と東アジアに多く近現代に偏重している」「センター試験における正誤判断に必要な語句は各時代を網羅している」が判明したことである。特に前者は、多くの高校生が近現代における基礎的な世界史的事象の用語などを理解、もしくは知っていることを意味している。これは、地理歴史科だけでなく公民分野の学習に対しても大いに生かすことができることを意味しており、高校の先生方および中学校の先生方にとって、今後の授業や学習指導を考える上で有益である。第二は、「高校生の地理歴史・公民科に対する意識は高く、社会の一員として必要だと考えている」こと、そして、歴史に限れば「近現代の時代を重要視し、かつ興味ももっている」ことが判明したことである。本研究では、その視点から「冷戦」を素材に授業例を例示し授業を行ったが、近現代以外の時代の学習においても「近現代の歴史的事象の淵源となる学習素材」として授業構成を考えれば、生徒達の知的要求にもかなう学習題材となると考える。第三は、「中学校の教科書が高校の授業でも有効な教材である」と判明したことである。本研究では、中学校での学習事項と高校での学習事項を関連づけて繋げる「構造化」した授業例を提案したが、この「構造化」への取り組みこそ、歴史的事象の因果関係、共通点と相違点の見極め、主題設定などの能力育成が必要とされる。従って、「地理歴史・公民科は暗記」などと地理歴史・公民科(社会科)が指摘されていた問題点や弊害を克服する学習活動に他ならない。そして、その延長上に、新学習指導要領の特徴である「言語活動」に対応した学習があると考えられる。

以上、まとめを三点挙げたが、この三点はいずれも「授業改善・授業力向上」につながる内容である。

よって、本研究の取組みは、「高校生学力向上事業」にも資する研究であったと考える。

さらにこのまとめから今後の課題も見えてくる。一つは、中学校の教科書歴史分野では記載が皆無に近い「イスラーム圏」や「東南アジア」での「中高接続」の取組みである。この地域の「中高接続」は地理分野や公民分野からのアプローチが可能であると判断する。そして、地理分野や公民分野を含めた「中高接続」こそが、新学習指導要領の「中学校社会科との円滑な接続を図り」の記述が求める「真の中高接続」であろう。もう一つは、学習活動や学習内容を含めたカリキュラム的な「中高接続」の取組みである。生徒達の学習において、授業・教材とともにカリキュラムは車の両輪である。本研究は、授業中心・学習素材中心の「中高接続」の提案であるため、今後はカリキュラムを含めた「中高接続」を考察したいと考えている。そして、これもまた中学校を巻き込んだ相互研究となるため、同じ目的に向かって緊密な連絡・協力をを行う真の「連携」になり得るのである。

最後に、本研究のため御協力・御助力頂きました福井県立羽水高等学校地理歴史・公民科の近藤雅文先生、川畑祐一郎先生をはじめ、多くの先生方に心より御礼を申し上げます。

《引用文献》

- 山田秀和(2007)「社会科カリキュラムにおける歴史領域の小・中・高一貫性—オハイオ州の社会科スタンダードを事例として—」『弘前大学教育学部研究紀要 98』 p 11、 p 19
- 溝上泰(1990)「歴史教育内容構成と歴史の国際化—他国史と自国史—」全国社会科教育学会『社会科教育論叢』第37号、 p 31 - 32
- 油井大三郎(2010)「高校歴史教育をどう改革するか」茨城大学世界史シンポジウム資料、 p 4 - 5

《参考文献》

- 文部科学省(2010)『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』
- 文部科学省(2008)『中学校学習指導要領解説 社会編』
- 明治図書(2010)『高等学校 新学習指導要領の展開 地理歴史編』原田智仁編著
- 東京書籍(2010)『新編 新しい社会 歴史』
- 東京書籍(2011)平成24年度版『新しい社会 歴史』
- 山川出版社(2010)『改訂版 詳説 世界史B』
- 大学入試センター(2001~2011)『大学入試センター試験 地理歴史科 世界史B 問題』
- 志水宏吉(2006)「学力格差を克服する学校—日本版エフェクティブ・スクールを求めて—」『教育學研究』73、日本教育学会
- 西川光男(1978)「中・高一貫の歴史教育を目指して—中学校世界史学習を通じて歴史教育の一貫を考える—」『社会科研究』第26号
- 羽田正(2011)『新しい世界史へ—地球市民のための構想』岩波書店
- 堀内一男・大杉昭英・伊藤純郎(2009)『中学校教育課程講座 社会』ぎょうせい
- 松本通孝(2010)「今、世界史について、何が論議されているのか？そして、何を論議すべきなのか？」近現代史教育研究会第173回例会資料
- 山田秀和(2008)「小・中・高一貫社会科における授業構成の基本原則—オハイオ州における各学校段階のレッスンプランを比較して—」『弘前大学教育学部研究紀要 100』
- 吉田太郎(1977)「歴史教育改革試論—小・中・高一貫性による—」『社会科研究』第25号